

高等学校第1学年 E 球技 ウ ベースボール型「ソフトボール」

単元目標

知識及び技能	勝敗を味わい、喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開できるようにする。									
思考力、判断力、表現力等	攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。									
学びに向かう力、人間性等	球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとするなど、作戦などについての話し合いに積極的に応じたプレイなどを実践しようとするなど、互いに助け合い教え合おうとするなど、安全を確保することができるようにする。									

※共：単元全時間を男女共習で実施

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
ねらい	ボール操作や安定的なバット操作を身に付け、ゲームを楽しむことができ、相手チームの得点を防ぐためにゲームで連携した守備を行うことができる。										
導入	<p style="text-align: center;">出席確認・号令走・準備運動・学習内容の確認</p> <p>チーム内で2人又は3人組を作り、コミュニケーションをとりながらキャッチボールを行う。(柔らかいボール・ソフトボール・新聞紙ボールから自分で選択してキャッチボールを行う。)</p> <p>共：(1) 生徒の課題に応じた、自己の動きを高めることができよう、自分の技能に合った距離で、自分の課題に応じてゴロやフライ等も含めてキャッチボールを行う。お互いに良いプレイを認め合うような声掛けを積極的に行う。</p>										
展開	ボール操作やバット操作等について理解すること、自己やチームの課題を見付けられること、説明を聞きながら説明する。	ボール操作に関する動きのポインタについて説明を聞き、練習を行う。	共：(1) 生徒の課題に応じた、自己の動きを高めることができよう、自分の技能に合った距離で、自分の課題に応じてゴロやフライ等も含めてキャッチボールを行う。お互いに良いプレイを認め合うような声掛けを積極的に行う。	バット操作に関する動きのポインタについて説明を聞き、練習を行う。	共：(2) 生徒の課題に応じた、自己の動きを高めることができよう、自分の技能に合った距離で、自分の課題に応じてゴロやフライ等も含めてキャッチボールを行う。お互いに良いプレイを認め合うような声掛けを積極的に行う。	2塁でダブルプレイの動きについてポイントを確認し、練習を行う。	共：ホワイトボードで動き方のポイントを確認し、練習を行う。	・打球に応じて、セカント又はショートが2塁へのベースカバーに入る。 ・2塁へのベースカバーと1塁へ送球は一度の動作で行うことができるようにタイミングを取る。	共：(2) 生徒の課題に応じた、自己の動きを高めることができよう、自分の技能に合った距離で、自分の課題に応じてゴロやフライ等も含めてキャッチボールを行う。お互いに良いプレイを認め合うような声掛けを積極的に行う。	ゲームを行う。	共：(2) 生徒の課題に応じた、自己の動きを高めることができよう、自分の技能に合った距離で、自分の課題に応じてゴロやフライ等も含めてキャッチボールを行う。お互いに良いプレイを認め合うような声掛けを積極的に行う。
終末	今後の学習の見直しをもつこと、自己やチームの課題を見付けられること、説明を聞きながら説明する。	【ルール】ゲームは3イニングゲームとする。※ただし、1・2回は各イニングで3点入った時点で攻守交替とする。	ゲームを行う。	共：(2) 生徒の課題に応じた、自己の動きを高めることができよう、自分の技能に合った距離で、自分の課題に応じてゴロやフライ等も含めてキャッチボールを行う。お互いに良いプレイを認め合うような声掛けを積極的に行う。	ゲームを行う。	共：(2) 生徒の課題に応じた、自己の動きを高めることができよう、自分の技能に合った距離で、自分の課題に応じてゴロやフライ等も含めてキャッチボールを行う。お互いに良いプレイを認め合うような声掛けを積極的に行う。	ゲームを行う。	共：(2) 生徒の課題に応じた、自己の動きを高めることができよう、自分の技能に合った距離で、自分の課題に応じてゴロやフライ等も含めてキャッチボールを行う。お互いに良いプレイを認め合うような声掛けを積極的に行う。	ゲームを行う。	共：(2) 生徒の課題に応じた、自己の動きを高めることができよう、自分の技能に合った距離で、自分の課題に応じてゴロやフライ等も含めてキャッチボールを行う。お互いに良いプレイを認め合うような声掛けを積極的に行う。	

知識・技能	①	②	③	④	①	②
思考・判断・表現	①	②			①	②
主体的に学習に取り組む態度	①	②				②

評価規準	<p>【知識・技能】</p> <p>①捕球場所へ最短距離で移動して、相手の打ったボールを取るることができる。</p> <p>②身体の軸を安定させてバットの軸を振り回すことができる。</p> <p>③球技の各型の各種目やおいて用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントを言ったり書いたりしている。</p> <p>④味方からの送球を受け取るために、走者の進む先の塁に動くことができる。</p>
【思考・判断・表現】	<p>①選択した運動について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとそれの理由を仲間に伝えていく。</p> <p>②体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見つけていく。</p>
【主体的に学習に取り組む態度】	<p>①球技の学習に自主的に取り組もうとしている。</p> <p>②互いに練習相手になったり仲間を助けたりして、互いに助け合い教え合おうとしている。</p>

生徒の課題に応じた、自己の動きを身に付けるための場や教具の工夫
 高等学校第1学年 E 球技 ウ ベースボール型「ソフトボール」

1 単元の目標

- 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開できるようにする。 【知識及び技能】
- 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】
- 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】

2 共生を基盤とした授業づくりにおける仕掛け

(1) 生徒の課題に応じた、自己の動きを身に付けることができる場の工夫

本単元では、ボール操作や安定したバット操作において、自己の課題を解決するため自己の技能に応じた練習ができる場を設定した。

【捕球する動きを身に付ける場】

①手で転がすボールを捕球

(距離：近い、ボールスピード：ゆっくり、ゴロ)

マーカーで囲まれた場所に2人一組で向かい合い、一方がボールを転がし、もう一方が捕球することを交互に繰り返す。

(正面、左右にゴロを転がす。)ゴロを転がす範囲は狭く、ボールスピードはゆっくりとし、捕球が苦手な生徒も意欲的に取り組むことができる場とした。



②-1バットで打ったボールを捕球

(距離：近い、ボールスピード：速い、ゴロ)

ノッカーが打ったゴロのボールを捕球し、1塁へ送球するという内野の守備を想定した練習の場を設定した。(上記①の練習よりボールスピードは速く、距離も遠い。)



②-2バットで打たれたボールを捕球

(距離：遠い、ボールスピード：速い、フライ)

ノッカーが打ったフライのボールを捕球し、返球するという外野の守備を想定した練習の場を設定した。(上記②の練習とボールスピードは同じであるが、距離が遠い。)



【バットを操作する動きを身に付ける場】

①ティーバッティング

止まったボールを打つ動きを身に付ける場とした。台の上に置いたボールは、新聞紙で作成したボールとティーボール用ボールを選択できるようにした。



②トスバッティング

動くボールに対してバットを操作する動きを身に付けるために、斜め前方（近い距離）からトスしたボールをバットで打つ場を設定した。上記①と同様に、新聞紙で作成したボールとティーボール用ボールを選択できるようにした。



③フリーバッティング

実際のゲームを意識しながらバットを操作する動きを身に付けるために、ピッチャーが投げたボールを打つ場を設定した。



(2) 生徒の課題に応じた、自分の動きを身に付けることができる教具の工夫

①ティースタンド

生徒全員が意欲的にバット操作の動きを身に付けることができるように、①静止した状態のボールにバットを当てる、②ボールを打ち抜くことができる教具として、ティースタンドをコーンと牛乳パックで作成した。

②新聞紙ボール

生徒全員が安全にバット操作の動きを身に付けることができるように、また、バットに上手くボールを当てる感覚をつかむことができるように、新聞紙を丸めてガムテープで補強した新聞紙ボールを準備した。新聞紙ボールは柔らかいため、ボールを打った際にバットの芯を外れて打っても手がしびれることがなく、バット操作が苦手な生徒でも積極的に練習に取り組むことができた。また、ボールをたくさん準備することが容易であるため、生徒がボールを打つ回数も確保できた。

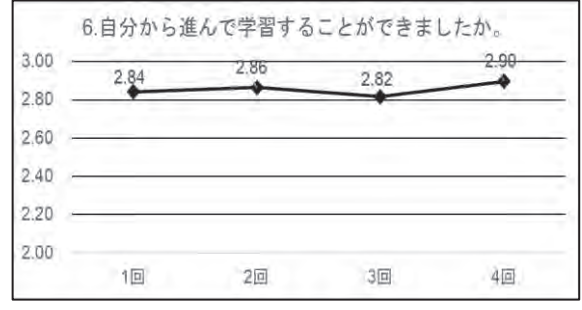


牛乳パックを使用しているため、バットが当たっても壊れにくい。

3 成果と課題

(1) 成果

○ 各時間の授業後に実施した「形成的授業評価」において、「自分から進んで学習することができましたか」という質問に対して、どの時間も高い値で推移した。また、本単元終了時、生徒に単元を振り返って感想を書かせたところ、下記のような記述が見られた。このことから、自己の課題を解決するために、自己の技能に応じた練習する場を設定したことで、生徒は積極的に授業に取り組むことができたと考える。



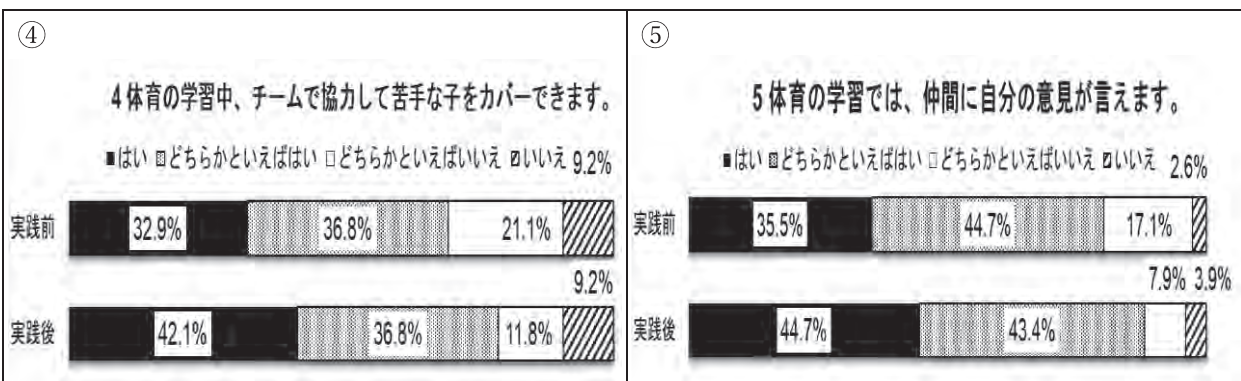
- ・小・中学校を通して、ソフトボールの授業でボールを打つことがほとんどできなかったが、ボールが止まっている状態から打つ練習をはじめたことで、ある程度打てるようになったことがうれしかった。
- ・自分のレベルにあった練習ができたことがよかった。また、友達とも協力でき楽しかった。機会があったら、ぜひ、またやってみたい。

(2) 課題

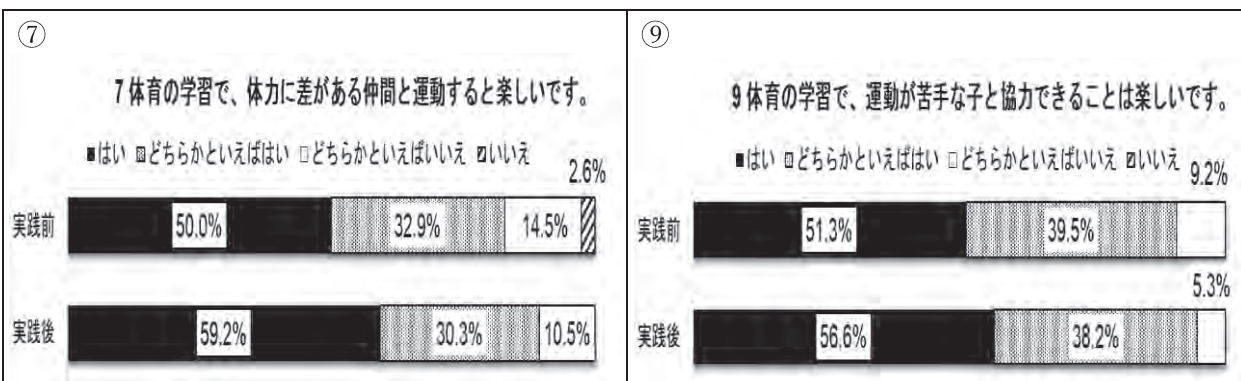
● 本実践は、生徒全員の「捕球する動き」、「バットを操作する動き」を身に付けることに重点を置いたことにより、ベースボール型ゲームにおける「連携した守備の動き」や「攻撃における作戦等の工夫」などについて、効果的な仕掛けが不十分であったと考える。今後は、本実践を通して高まった動きをもとに、生徒全員が、「もっと活躍したい」、「もっとゲームを楽しみたい」と思うための工夫を重ねていきたい。

【児童生徒の変容】

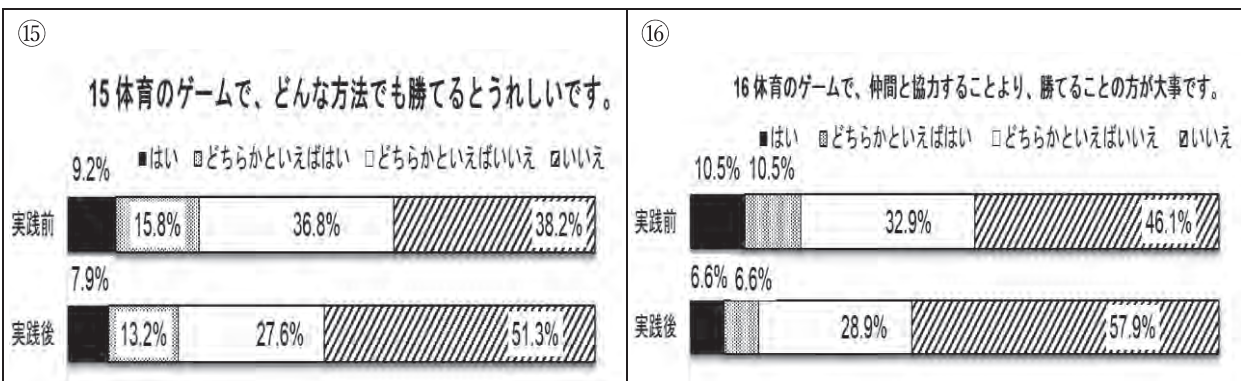
〔Ⅰ リーダーシップ〕



〔Ⅱ ちがいの受容〕



〔Ⅴ 過度な勝利志向〕



〔排除雰囲気〕

